

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：中澤真司 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：久野 覚 主 査 名：田端 淳
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>床衝撃音に関する研究は、床衝撃音遮断性能が住宅性能表示制度の評価項目でもあり、一般消費者の関心が高いことから、各種機関によって盛んに行われている。また、2000 年の測定・評価方法を示す JIS の改正や、近年の性能の向上、住まい方の変化などにより、床衝撃音遮断性能に関する評価方法の見直しが強く迫られている。本小委員会では、床衝撃音の諸問題をとりあげ、JIS に追加されたゴムボール衝撃源による評価方法の検討を主体に活動を進めている。</p> <p>2009 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2008 年度に実施した聴感評価実験結果の詳細分析を行い、ボールを標準衝撃源とした場合の重量床衝撃音に関する評価方法案の学術的根拠を明確化する。</li> <li>・大会オーガナイズドセッションにて成果を公表する。</li> </ul> <p>2010 年度以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを標準衝撃源とした場合の重量床衝撃音に関する評価方法の提案</li> <li>・まとめ、成果公表の準備</li> <li>・成果発表 (シンポジウム)</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有 (2009 年度)</p> <p>中澤真司 (主査：鉄建建設)、稲留康一 (幹事：奥村組)、赤尾伸一 (三井住友建設)、井上勝夫 (日大理工)、漆戸幸雄 (フジタ)、河原塚透 (大成建設)、田中学 (日総試)、中川清 (清水建設)、中森俊介 (小林理研)、濱田幸雄 (日大工)、平松友孝 (音・環境研究所)、平光厚雄 (建研)、藤橋克己 (前田建設)、松岡明彦 (戸田建設)、矢入幹記 (鹿島建設)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>○固体音測定法検討WG</p> <p>鉄道振動・固体音の測定法は規格化されていないために、各機関がそれぞれの方法で測定を行っている状態である。そこで、鉄道振動・固体音等の測定方法に関する検討を行い、測定法の統一化に向けての一助とする。</p>	
2010 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無： <input type="checkbox"/> 無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年度末までに床衝撃音遮断性能の評価方法案の提案まで完了する予定</li> <li>2. 2010 年大会：聴感評価実験結果発表 (1 編)</li> <li>3. 2011 年日本騒音制御工学会春季発表会：床衝撃音レベル等級と A 特性床衝撃音レベルの対応に関して発表予定 (1 編)</li> <li>4. 2011 年度大会 OS：委員会成果を発表予定 (2 編)</li> </ol>
委員会活の問題点 ・課題	

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>固体音小委員会では、2010年度は、          上期は主にJIS標準衝撃源と実生活で生じる各種床衝撃音の学生並びに建築音響関係者を被験者とした聴感評価実験結果について検討を行った。          下期は上記聴感評価実験結果の検討に加え、音環境規準検討小委員会の要請から、床衝撃音遮断性能の性能規準、測定・評価方法について審議した。          床衝撃音遮断性能の測定・評価方法については、A特性床衝撃音レベル(オーバーオール値)を直接測定して評価する方法とバンドレベルを測定して評価する方法を有力な方法として捉え、両者の特徴を整理して検討を進めた。また、各委員所属の機関で保有する床衝撃音データを基に、A特性床衝撃音レベルと床衝撃音レベル等級の対応性等について検討した。          聴感評価実験結果の検討並びに床衝撃音遮断性能の性能規準、測定・評価方法に関する検討は今後も継続して審議する。</p> <p>委員会開催数：10回（幹事会やワーキングを除く）</p> <p>小委員会活動の成果として以下の口頭発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年大会発表(1編)：建築音響関係者を対象とした床衝撃音聴感評価実験結果の検討 ―最大A特性床衝撃音レベル並びにL数と各種主観評価量の対応―</li> <li>・ 2011年日本騒音制御工学会春季発表会発表予定(1編)：床衝撃音レベル等級とA特性床衝撃音レベルの対応に関する検討</li> <li>・ 2011年大会OS発表予定(2編)：①聴感評価実験結果に関して、②床衝撃音の測定・評価方法に関して</li> </ul>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。